

## ■東京スプリント(JpnⅢ)アラカルト(過去 10 回の分析)

※第 19 回(平成 21 年)までは東京シティ盃競走として実施

※第 20 回(平成 21 年)からダートグレード競走として実施

※平成 21 年は同年に第 19 回(東京シティ盃)、第 20 回(東京スプリント)を実施。よって本資料は過去 9 年間 10 回の分析とする。

※第 20 回以降(ダートグレード競走になってから)は 4 月に実施

※記録は 3 月 20 日時点のもの

### ダートグレード競走に衣替えしてからの傾向(過去7回)

#### ■JRA所属馬6勝

◇JRA所属馬 6 勝、2 着 5 回、3 着 3 回。3 着内率 66.7%

◇地方所属馬 1 勝、2 着 2 回、3 着 4 回。3 着内率 33.3%

※7 回中 4 回がJRA所属馬のワンツー・フィニッシュ。

#### ■1番人気馬は、7頭すべてが3着以内

◇1 番人気馬 4 勝、2 着 2 回、3 着 1 回。3 着内率 100.0%

◇2 番人気馬 0 勝、2 着 2 回、3 着 0 回。3 着内率 28.6%

◇3 番人気馬 1 勝、2 着 1 回、3 着 1 回。3 着内率 42.9%

#### ■1200m戦以下での実績が重要

※3 着内馬 21 頭中、18 頭が 1200m以下で勝利経験があった。

※例外の 3 頭は、第 20 回優勝ゼンノパルテノン(初距離)、第 22 回優勝 セレスハント(初距離)、第 25 回 3 着アルゴリズム(JRA から転厩初戦)。

#### ■TCK短距離ダートグレード競走の特徴

※東京スプリント(平成 21~27 年)、東京盃(平成 18~27 年)が対象。

◇上記競走 1 着馬 17 頭中、16 頭が 1400m以下のダートグレード競走で連対実績があった。

例外は、第 20 回優勝のゼンノパルテノン(JRA短距離OP戦で連勝経験)のみ。

## 東京シティ盃を含む過去 10 回の分析

### ■前年のJBCスプリント最先着馬が好走

第 17 回 3 着 コアレスタイム(第 6 回JBCスプリント 4 着)

第 19 回優勝 フジノウェーブ(第 8 回JBCスプリント 7 着)

第 20 回 3 着 フジノウェーブ(第 8 回JBCスプリント 7 着)

第 21 回優勝 スーニ(第 9 回JBCスプリント 1 着)

第 24 回 2 着 セイクリムズン(第 12 回JBCスプリント 2 着)

第 25 回 2 着 セイクリムズン(第 13 回 JBC スプリント 3 着)

※昨年のJBCスプリントは 1 着コーリンベリー、2 着ダノンレジェンド、3 着ベストウォーリア。

### ■6・7歳馬が7勝と活躍

◇4 歳馬 1 勝、2 着 1 回、3 着 0 回。3 着内率 6.7%

◇5 歳馬 2 勝、2 着 2 回、3 着 1 回。3 着内率 16.7%

◇6 歳馬 4 勝、2 着 0 回、3 着 3 回。3 着内率 23.3%

◇7 歳馬 3 勝、2 着 4 回、3 着 4 回。3 着内率 36.7%

◇8 歳馬 0 勝、2 着 2 回、3 着 1 回。3 着内率 10.0%

◇9 歳馬 0 勝、2 着 0 回、3 着 1 回。3 着内率 3.3%

◇10 歳馬 0 勝、2 着 1 回、3 着 0 回。3 着内率 3.3%

※ダートグレード競走となった第 20 回以降 7 回中、6 歳・7 歳馬が 5 勝で高齢馬優位の傾向は変わっていない。

### ■牝馬は1勝

※牝馬は 11 頭が出走して、1 勝、3 着 1 回。

### ■外国産馬は1勝

※外国産馬は、第 21 回スーニが初優勝。

※外国産馬は、14 頭が出走して 1 着 2 回、2 着 2 回、3 着 1 回。

### ■斤量の増減に注目

※ダートグレード競走になって 7 回、優勝馬はすべて前走より斤量が軽い。

※ただしそれ以前の優勝馬 3 頭中 2 頭が斤量増(残り 1 頭は同斤)。

### ■JRA 所属馬が6勝でリード

◇TCK所属馬 2 勝、2 着 3 回、3 着 4 回。3 着内率 30.0%

◇船橋所属馬 1 勝、2 着 2 回、3 着 3 回。3 着内率 20.0%

◇川崎所属馬 0 勝、2 着 0 回、3 着 0 回。3 着内率 0.0%

◇浦和所属馬 0 勝、2 着 0 回、3 着 0 回。3 着内率 0.0%

◇JRA所属馬 6勝、2着5回、3着3回。3着内率 46.7%

※他では、高知7頭、兵庫2頭、佐賀1頭、笠松4頭、金沢1頭が挑戦し、  
第24回ラブミーチャン(笠松)が優勝。

■1番人気馬の3着内率は100%

◇1番人気馬 6勝、2着2回、3着1回。3着内率 90.0%

◇2番人気馬 0勝、2着2回、3着1回。3着内率 30.0%

◇3番人気馬 1勝、2着2回、3着1回。3着内率 40.0%

■御神本訓史騎手が2勝

※御神本訓史騎手は2勝、2着1回、3着1回の好成績(すべてフジノウェーブ)。

■高橋三郎調教師が2勝

※高橋三郎調教師は2勝、2着3回、3着1回と好成績。

※現役では JRA 服部利之調教師が1勝、2着2回の好成績。

■3着は⑧番から外が8頭と集中

馬番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
1着	0	2	1	0	0	2	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0
2着	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	1
3着	1	1	0	0	0	0	0	2	0	2	1	1	1	1	0	0

## ■東京スプリント(JpnⅢ)アラカルト(過去全 26 回の分析)

※第 19 回(平成 21 年)までは東京シティ盃競走として実施

※第 20 回(平成 21 年)からダートグレード競走として実施

※平成 21 年は同年に第 19 回(東京シティ盃)、第 20 回(東京スプリント)を実施。よって本資料は 25 年間 26 回の分析とする。

※第 1 回から第 11 回、および第 14 回から第 16 回までは 1400m で実施

※第 12 回・第 13 回は 1390m で実施

※第 17 回以降は 1200m で実施

※第 13 回まで 1 月もしくは 2 月、第 14 回からは 3 月に実施

※第 20 回以降(ダートグレード競走になってから)は 4 月に実施

※記録は 3 月 20 日時点のもの

### ■1 番人気馬の勝率は 50% を超える

◇1 番人気馬 14 勝、2 着 6 回、3 着 1 回。3 着内率 80.8%

◇2 番人気馬 3 勝、2 着 4 回、3 着 3 回。3 着内率 38.5%

◇3 番人気馬 1 勝、2 着 6 回、3 着 4 回。3 着内率 42.3%

※とくに 6 番人気馬は 2 勝、2 着 4 回、3 着 2 回。3 着内率 30.8% で要注意。

※26 回中 18 回は、3 番人気以内の馬による優勝。その確率 69.2%。

※26 回中、3 番人気以内の馬によるワン・ツー・スリーは 1 回のみ。

### ■2 勝馬は 1 頭だけ

※フジノウェーブが第 17 回、第 19 回で優勝(2 着 2 回、3 着 1 回)。

※連覇はまだ一度もない。

### ■牝馬は 1 勝

※牝馬は第 24 回ラブミーチャンが優勝。

### ■外国産馬は 2 勝

※外国産馬では、第 21 回スーニ、第 26 回ダノンレジェンドが優勝。

※2 着は第 18 回シルヴァーゼット、第 20 回ガブリンの 2 回。

### ■6 歳馬が 8 勝でリード

◇4 歳馬 4 勝 勝率 15.4%

◇5 歳馬 6 勝 勝率 23.1%

◇6 歳馬 8 勝 勝率 30.8%

◇7歳馬 7勝 勝率26.9%

◇9歳馬 1勝 勝率 3.8%

※6歳以上の馬で、半数以上の16勝。その確率61.5%。

※8歳馬の優勝はなし。

### ■TCK所属馬が13勝でリード

◇TCK所属馬 13勝 勝率50.0%

◇船橋所属馬 5勝 勝率19.2%

◇川崎所属馬 1勝 勝率3.8%

◇JRA所属馬 6勝 勝率23.1%

◇他地区所属馬 1勝(笠松) 勝率3.8%

※ただし第19回までは南関東所属馬の限定戦。

### ■3騎手が3勝で並ぶ

※早田秀治騎手は第1回、第5回、第6回で優勝。

※石崎隆之騎手は第7回、第11回、第18回で優勝。

※御神本訓史騎手は第16回、第17回、第19回で優勝。

### ■高橋三郎調教師が5勝

※高橋三郎調教師は第12回、第13回、第16回、第17回、第19回を制覇。

### ■②番が5勝、⑧番が3着以内11回

馬番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
1着	2	5	3	1	1	3	2	2	2	0	2	0	1	1	0	1
2着	3	3	0	4	1	2	1	3	0	1	2	2	1	0	2	1
3着	4	1	1	1	1	0	0	6	3	3	1	2	1	1	0	1

### ■①枠が6勝で最多勝

枠番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1着	6	3	4	2	3	3	4	1
2着	4	6	2	2	1	4	0	7
3着	5	0	1	5	6	3	3	3